

JSSP51thWS 調査(2)「社会心理学者たちの声」単純集計

実施期間:2010.8.24～9.2

実施方法:日本社会心理学会メールニュースで調査サイト(SurveyMonkeyを利用)を広報

調査サイト:PDF(出力の際に一部レイアウトが崩れています. ご了承ください)

Q. 社会心理学の各領域の学術的重要性と社会的必要性(5つまで選択)

学術的重要性

	%	度数
社会的認知	21.9	40
対人的相互作用	20.8	38
感情・動機	18.6	34
対人的コミュニケーション	15.3	28
社会的ジレンマ	14.8	27
集団	14.2	26
偏見・ステレオタイプ	13.7	25
集団の意思決定	13.1	24
自己・パーソナリティ	12.6	23
社会的ネットワーク	11.5	21
QOL(Quality of Life)、ライフストレス	11.5	21
認知	10.9	20
社会的交換	10.9	20
リスク認知	10.4	19
集団内過程(同調と逸脱・リーダーシップ等)	9.8	18
集団行動	9.8	18
自己概念・社会的自己	9.3	17
身近な人間関係(対人関係の発展・崩壊)	9.3	17
対人葛藤・対人ストレス	9.3	17
比較文化	9.3	17
態度構造、態度変容・説得、信念	8.2	15
ソーシャルサポート	8.2	15
社会的アイデンティティ	8.2	15
電子ネットワーキング	8.2	15
文化	8.2	15
社会問題・社会病理	8.2	15
帰属・帰属のバイアス	7.7	14
社会化	7.7	14
いじめ・学校内の問題	7.1	13
態度・信念	6.6	12
環境	6.6	12
パーソナリティと社会的行動	6	11
価値意識	6	11
組織	6	11
コミュニケーション	6	11
世論過程	6	11
社会的スキル	5.5	10
集団間関係	5.5	10
マスメッセージ	5.5	10
異文化適応	5.5	10
高齢者・高齢化社会	4.9	9
この中にはない	4.9	9
対人認知・印象形成	4.4	8
犯罪・非行	4.4	8
自己開示・自己呈示	3.8	7
協同・競争	3.8	7
援助	3.8	7
攻撃	3.8	7
性役割・ジェンダー	3.8	7
都市化	2.7	5
産業	2.2	4
消費・生活意識	2.2	4
消費	2.2	4
政治参加・投票	2.2	4
政治意識	2.2	4
社会的勢力・統制	1.6	3
政治行動	1.6	3
社会的比較	1.1	2
ライフスタイル	1.1	2
対人魅力	0.5	1
被服行動・化粧行動	0.5	1
普及・流行	0.5	1
流言	0	0
広告	0	0
宗教	0	0

社会的必要性

	%	度数
高齢者・高齢化社会	29.1	50
QOL(Quality of Life)、ライフストレス	27.9	48
いじめ・学校内の問題	26.7	46
社会問題・社会病理	25	43
犯罪・非行	22.1	38
環境	17.4	30
ソーシャルサポート	14	24
社会的ジレンマ	14	24
偏見・ステレオタイプ	12.8	22
集団の意思決定	12.2	21
リスク認知	10.5	18
対人葛藤・対人ストレス	10.5	18
電子ネットワーキング	10.5	18
社会的認知	9.3	16
社会的スキル	9.3	16
対人的相互作用	8.7	15
対人的コミュニケーション	8.7	15
社会的ネットワーク	8.7	15
異文化適応	8.7	15
組織	8.1	14
集団内過程(同調と逸脱・リーダーシップ等)	7.6	13
都市化	7.6	13
産業	7	12
政治参加・投票	7	12
マスコミュニケーション	6.4	11
この中にはない	6.4	11
社会的アイデンティティ	5.8	10
社会的交換	5.8	10
コミュニケーション	5.8	10
世論過程	5.8	10
比較文化	5.8	10
性役割・ジェンダー	5.8	10
攻撃	5.2	9
身近な人間関係(対人関係の発展・崩壊)	5.2	9
政治意識	5.2	9
集団	4.7	8
消費	4.7	8
文化	4.7	8
態度構造、態度変容・説得、信念	4.1	7
援助	4.1	7
感情・動機	3.5	6
帰属・帰属のバイアス	3.5	6
集団間関係	3.5	6
消費・生活意識	3.5	6
政治行動	3.5	6
自己・パーソナリティ	2.9	5
認知	2.9	5
態度・信念	2.9	5
集団行動	2.9	5
自己概念・社会的自己	2.3	4
協同・競争	2.3	4
社会的勢力・統制	2.3	4
ライフスタイル	1.7	3
社会化	1.7	3
宗教	1.7	3
パーソナリティと社会的行動	1.2	2
価値意識	1.2	2
自己開示・自己呈示	0.6	1
対人認知・印象形成	0.6	1
広告	0.6	1
社会的比較	0	0
対人魅力	0	0
被服行動・化粧行動	0	0
流言	0	0
普及・流行	0	0

「その他」自由記述

学術的重要性

(他に方法がないのでこの欄に書きます)このリスト上のすべての領域で学術的重要性が高いと思います。
マイノリティ問題(特にアイヌ、部落、在日、移動(migration)、難民)についての研究

カテゴリーが細かすぎて選べません。(分析の際も、回答者数に比べてカテゴリーが多すぎて分析不能に陥るのではないのでしょうか?)

すべてが重要であり、かつ同程度に重要だと思います。
何ともいえない。テーマ以外の要素による部分が大きいように思う。
それぞれの領域にはそれぞれ重要な価値があると思うので、5つ選択するのは困難である。
アカデミックな価値は全てにあると思うので5つを選ぶことはできない
全部学術的な重要性はあると思う
5つというのは少なすぎる
みな重要であり、優先順位をつけることはナンセンス
「この中にはない」のではなく、学術的重要性という観点から5つだけを選ぶことはできません

社会的必要性

文化・社会的問題: 防災・災害後の対応
(他に方法がないのでこの欄に書きます)このリスト上のすべての領域で必要度が高いと思います。
虐待
civil societyが社会の変化に与える影響。貢献と日本におけるマイノリティ問題
同前
前の回答と同じ
国家施策としては不要(おかげは出すとしても)
同上
次世代育成と社会との関わり
生かし方次第でどれも重要だし、生かせない人にとってはどれも重要ではない
先の問いへの回答と同様です

Q. 社会心理学者以外とのコラボレーション経験

	%	度数
ある	42.4	72
ない	57.6	98

Q. コラボ経験「あり」の場合のパートナー 自由記述

	%	度数
企業	44.6	37
NPO	12.0	10
行政	14.5	12
司法	3.6	3
教育	10.8	9
医療	8.4	7
福祉	2.4	2
心理学の他領域	3.6	3

Q6. 経験したことのある(現在着手している)研究手法(いくつでも選択)

事例研究(臨床)	13.1	22
事例研究(臨床以外)	17.9	30
アクション・リサーチ(介入研究)	16.7	28
質問紙調査(大学生以外を主たる対象とするもの)	75.6	127
質問紙調査(標本抽出を伴うもの)	46.4	78
インタビュー調査	53.0	89
史資料の内容分析	16.7	28
シミュレーション研究	15.5	26
実験室実験	60.7	102
フィールド実験	17.3	29
縦断的研究	26.8	45
国際比較研究	31.0	52
なし	3.6	6

Q. 調査・ワークショップに対するコメント 自由記述

この数年、仕事をされていて、気に留めていた部分についてのネタなので期待しております。

お疲れ様です。

ご企画、非常に楽しみにしております。ぜひ参加したいと考えています。

社会還元ということで何を意味するか、必ずしもはっきりしませんが、学会の発表には、子どもがあるおもちゃがほしくて、どうしてもそれを手に入れようとした程度の意図の研究が多すぎないか。つまり、自分の関心だけで完結するような研究ではなくて、研究が持っている社会的な意義や役割を考えるべきではないか。それはきわめて理論的な対人関係が持つ進化論的な意味でもよいし、もっと具体的な高齢者が元気になるネットワーク要因の研究でもよいが、自分のお子様の関心のだけにするような研究に科研費を与える、といったようなことには問題を感じる。

非常に意義のある企画だと思います。当日楽しみにしています。

研究知見を還元されるフィールドの方々、さらには研究とフィールドとをつなぐ役割を担う方々の話を聞きたい。

対人コミュニケーションにおける欺瞞を専門に研究しております。学部時代には、ノンバーバルを中心として対人コミュニケーションにおける記号化と解読のプロセスを捉えるために、その両過程を捉えやすい欺瞞を卒論テーマとしました。しかしながら、大学院に進むと虚偽検出を研究目的としていなかったのですが、基礎的なプロセスとして生理指標も取り入れるようになりました。これらの研究の「日常への貢献」ということに関しては、大学院時代からの悩みであります。対人コミュニケーションの基礎プロセスやシステムを明示できたとして、何の役に立つのか？この悩みは今も続いております。（社会的スキルやそのトレーニングなどへの応用も考えられます。ただ、対人コミュニケーションが苦手であっても、それを受け入れる社会となる必要性を感じているために、取りあえず現在では日常の中で、社会の中で人々がどのようにコミュニケーションを行っているかを知ろうとしているところです。）

何をもって社会に対して貢献したのか、還元されたのかを定義しなければ、何を話しても無駄になってしまうのではないのでしょうか。たとえば、娯楽としての立ち位置もあります。

多くの大学で産官学地域連携プロジェクトが推奨されているように見受けます。しかしながら、心理学研究者・心理学実験室と社会の諸領域を実質的にリンクさせ、有益で革新的な科学的知見を結果として社会諸領域に還元するためにはいくつかの障壁にしばしば直面します。一般的な問題としては、心理学を学んでいない人々にとって、心理学の理論や概念、研究手法は難解（理解が難しい）なことが挙げられます。プロジェクトを推進するためには、心理学研究者には平易な概念（用語）でコミュニケーションを図る努力とスキルが求められるように思います。

回答にくい内容でした。

最初の2問に回答するのは非常に難しかった。あくまで自分の関心に基づいての回答であることをお断りしておきます。

盛会になることを祈念しております。

単に現状を批判するだけでなく、「では、どうすればよいのか？」を前向きに考えていけるようなワークショップとしていただければ幸いです。楽しみにしております。

「どうあるべきか」という問いかけに回答するには価値判断が大きく関係してきます。企画者の先生方の視点から、社会心理学と心理学の他分野の協働がまず必要であることも 討論に含めていただきたいです。社会心理学における社会貢献のモデル例にはどのようなものがありますでしょうか。 これも知りたいところです。 多くの細目に分けての質問に回答しましたが、学問の社会還元には価値観の変換が必要だと思います。日本はそこが一番弱いのではないのでしょうか。 期待しています。

このアンケートについてですが、こうした専門分野から重要度の高いものを、数で引き出しますと、現在、専門者の多いところが多くなる傾向が出ないか、少し心配です。